

主催：TCU支援会 特別遺贈セミナー

「超高齢社会に突入！教会における終活にどう備えるか！？」

－キリスト教葬儀からの宣教の可能性－

キリスト教葬儀専門
㈱ライフワークス
代表取締役 野田 和裕
終活実践アドバイザー

なぜ今、教会で 葬儀・終活・遺贈を考える ことが必要なのか！？

▶ 2025年・2030年問題から考える！

▶ 昨今の葬儀事情から考える！

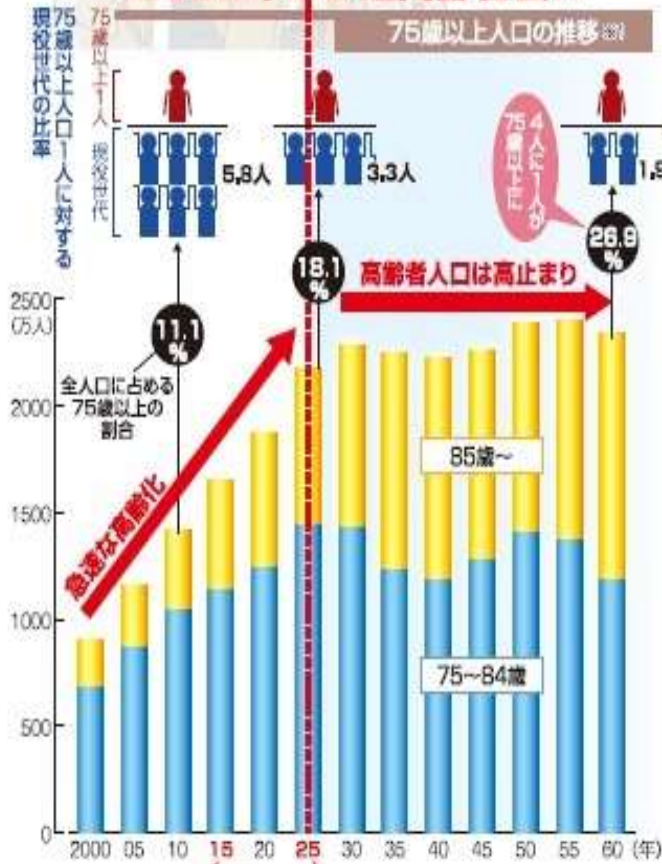
＊ 超高齢社会に突入した現代

教会は終活・葬儀・遺贈をしっかりと考える必要性が急務な時代に突入している。

2025年問題を考える！



2025年から超高齢社会に

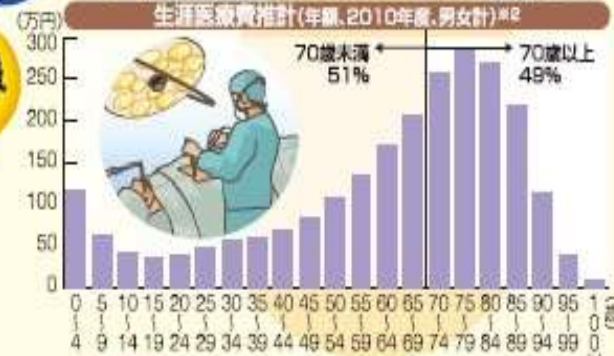


※1: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年1月推計)、総務省「国勢調査」から作成
 ※2: 厚生省推計

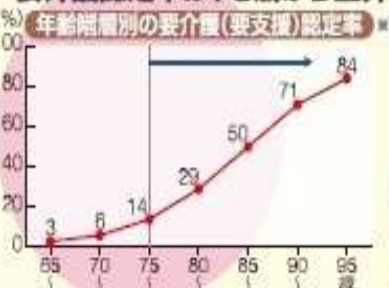
75歳からは

高まる医療、介護の必要性

生涯医療費の約半分は70歳以上から



要介護認定率は75歳から上昇



65歳以上高齢者認知症の増加



女性は4人に1人が1人暮らしに



財政負担は?

医療、介護の給付割合が増加

社会保障に係る費用の将来推計(給付費)



現役世代の負担も大きくなるけど、高齢者の負担も大きくなるのね

上がる保険料

保険料水準の見通し

	2012年度	25年度
国民健康保険(0~74歳)	7600円	9300円
後期高齢者医療(75歳以上)	5400円	6500円
第1号被保険者(65歳以上)	5000円(平均4972円)	8200円

月額、2012年度賃金基準

超高齢社会の備えをどうするか、大きな課題です



教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？

知っておくと安心の 5つのポイント



25年キリスト教
葬儀に携わってき
て気がついた5つ
のこと

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



① 葬儀運営委員会 慶弔運営委員会の設立

- 牧師一人では対応しきれない
- チームワークと意識付け
- 教会として葬儀は大事な働き
- 葬儀のイロハをマスターしておくべき
- 流れ • 費用 • 死後の手続き等

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



②葬儀マニュアルを 作成する

- 葬儀の一連の流れを把握
- 年に1回は説明会
- 教会の葬儀スタイルの確立
- 葬儀、終活のトレンド
- 墓地のこと

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



③終活システムの構築

- ・生前準備→介護→看取り→
葬儀→墓地→葬儀後手続き
をセットとして考える。

* 遺贈も含めしっかりと考える必要性がある。

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



④墓地・納骨からの関係性

- 日本人はお骨の行き先に拘る
- 墓地、納骨の活用方法
- 共同納骨堂
- 教会員の家族の遺骨
- 召天記念者礼拝は強力な伝道

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



⑤多死社会に向け葬儀の 受け入れ態勢の構築

- 未信者の葬儀
- 教会員との認識確認
- 日本人の宗教観の変化

教会として葬儀と終活から 何をすべきなのか？



⑥エンディングノートのおすすめ

- ・エンディングノートは必要か！？
- ・エンディングノートから遺贈を思う



最後に ■ ■ ■ 。

- ま と め
- 質 疑 応 答

これまで日本が経験したことのない、超高齢社会・多死社会の時代に突入致しました。今、教会としてクリスチャンとして何ができるのか？終活をキーワードにまずは一歩、出来る事から始めましょう。

ご静聴ありがとうございました。